津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法㉒

― 夏に多いこどもの皮膚トラブル ―

小宅医院　小宅民子

こどもたちが大好きな夏がやってきました。しかし、夏は肌を露出することが多く、皮膚トラブルの多い時期でもあります。夏に多いこどもの皮膚トラブルを知り、早めの対処で快適に夏を過ごしましょう。今回は、あせも、とびひ（伝染性膿痂疹）、水いぼ（伝染性軟属腫）について説明したいと思います。

あせもは、額、鼻、首まわり、背中など汗のかきやすいところにできる発疹です。汗をかかないようにするのが一番の予防法ですが、汗は気温に対応できる体をつくるのに重要です。汗をかいたらシャワーを浴び、よく水分を拭き、皮膚を清潔に保ちましょう。

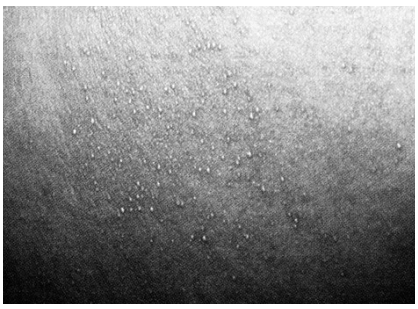
とびひ（伝染性膿痂疹）は、細菌が皮膚に感染して水ぶくれができ、水ぶくれが破れて中の細菌が飛び火のように体のあちこちに、ひろがってゆく病気です。汗をかきやすく細菌も増殖しやすい夏に多くみられます。軽い場合は、抗生物質の軟膏をぬり、皮膚を清潔に保つことでなおります。とびひが、ひろがっている場合は抗生物質の軟膏に加え、抗生物質を内服します。とびひになっても休園や休学の必要はありません。ただし、完治するまではプールは入れません。また、家族間でもタオルや衣服の共有は避けましょう。あせもや、湿疹、虫刺されなどは、早めに治療し、かきむしらないようにしましょう。毎日入浴し、皮膚はいつも清潔に保つようにしましょう。また、爪はいつも短く切っておきましょう。

水いぼ（伝染性軟属腫）はウイルスの感染によってできる1～3㎜位の小さな白いぶつぶつです。この塊が破れるとウイルスがひろがり水いぼの数が増えてきます。放置しても、半年から数年たてば自然に治ります。しかし、放置していると、水いぼ周囲に湿疹ができたり、かきくずしも増え、さらなる皮膚トラブルを起こすことがあります。治療法は、いくつかの選択枝があります。こどもの年齢や症状によって違ってきます。主治医とよく相談してください。水いぼは、肌から肌への直接感染や、タオルやビート板を共有し感染するといわれています。プールの水を介しての感染はなく、水いぼだからといってプールを禁止する必要はありません。

夏の皮膚トラブルを防ぐには、毎日入浴し、皮膚はいつも清潔に保つようにしましょう。

夏に多い皮膚トラブル

あせも（汗疹）



とびひ（伝染性膿痂疹）

水いぼ（伝染性軟属腫）

（Nelson textbook of Pediatrics, Visual Diagnosis and Treatment in Pediatricsより引用）

- 汗をかいたらシャワーを浴び、よく水分を拭き、皮膚を清潔に保ちましょう。
- 毎日入浴し、皮膚はいつも清潔に保つようにしましょう。
- 爪はいつも短く切っておきましょう。
- とびひでは、完治するまでプールは入れません。
- 水いぼでは、プールを禁止する必要はありませんが、タオルやビート板の共用はやめましょう。

注：津久見中央病院にて、「こどもの病気に関するミニ講演会」を月1回（原則第3木曜日17時～17時半）に開催しています。参加自由です。
また、津久見市では、「こどもの病気とその対策法フローチャート」を発行しています。ご必要の方は、津久見市役所健康推進課 ☎82－9523